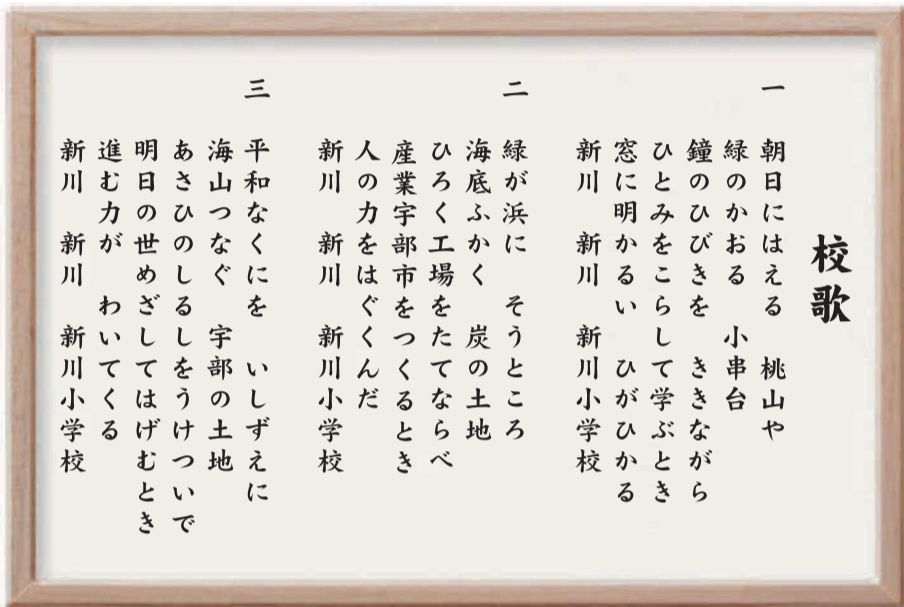


創刊110周年記念
誇れるふるさと
24地区リレー
〈vol.22〉

〈新川③ 小学校歌〉

炭鉱をはじめとした産業の発展による市街地の児童数増加に伴い、当時の宇部尋常高等小学校（現上宇部小）の分校として1910（明治43）年に創立した新川小。開校時には独自の校歌は作られず、現在歌われている「新川 新川 新川小学校」の二部合唱が印象的な校歌は60（昭和35）年に開校50周年記念事業の一環で制定された。



校歌

一 朝日にはえる 桃山や
緑のかおる 小串台
鐘のひびきを ききながら
ひとみをこらして学ぶとき
窓に明かるい ひがひかる
新川 新川 新川小学校

二 緑が浜に そうとこ
海底ふかく 炭の土地
ひろく工場をたてならべ
産業宇部市をつくらるとき
人の力をはぐくんだ
新川 新川 新川小学校

三 平和なくを いしづえに
海山つなぐ 宇部の土地
あさひのしるしをうけついで
明日のせめぎしてはげむとき
進む力が わいてくる
新川 新川 新川小学校

印象的な二部合唱「元気な気持ちに」

校歌制定以前は「厚東の山の峰よりも…」で始まる上宇部小の校歌と同じ歌が旧校歌として存在していたが、同校では40周年式典で披露するまで



校舎のそばに建つ校歌の碑（新川小で）

「白鳥の歌」の作曲家に依頼

長い間歌われることなく、児童にもなじみがなかった。そこで50周年を機に学校の象徴となる校歌を作ろうと、PTAや同窓生、教職員の代表者らによる制定委員会を設立。歌詞は「平易な語調で親しみやすく、励みを与え、子どもらしく明るいもの」といった要項で一般公募が行われたが、

あつた作曲家の西崎嘉太郎さんに依頼。完成した新しい校歌は50周年式典で、合唱クラブの児童と式典のために来市した西崎さんの指揮の下で高らかに披露された。

「耳に残りやすい良いリズムで、特に二部合唱の部分は明るく元気な気持ちにさせてくれる」と真鍋伸明校長。「自然と歴史、人的環境に恵まれた新川がよく表現されている歌詞。子どもたちには、3番の詞に歌われているように将来に向かって伸び伸びと、地域を愛しながら世界に羽ばたく人材になってほしい」と願いを込める。

適切な作品がなく、同委員会が応募作品の趣意を取り入れて作詞した。作曲は歌詞に合わせ、常盤湖の「白鳥の歌」の作者として宇部市と縁が…からの部分に該当す